



研究の概要

◆ESD（持続可能な開発のための教育）に課せられた最重要課題

- SDDGs（持続可能な開発目標）達成のための実践プログラム開発

◆コレクティブインパクトとは？

- さまざまな組織などが、それぞれの強みを生かして、社会的課題の解決に向かうこと (John Kania & Mark Kramer: Collective Impact. *Stanford Social Innovation Review*, 2011)
- 重要なことは、共通のアジェンダをもつことすなわち、すべての参画者が変革に向けたビジョンを共有すること (Fay Hanleybrown, John Kania, & Mark Kramer: Channeling Change- Making Collective Impact Work. *Stanford Social Innovation Review*, 2012)

◆本研究の目的

- SDGsに向かう学習過程のなかにもコレクティブ・インパクトを組み込むか？
- 持続可能な社会づくりに向けたストーリーとコレクティブ・インパクトのシナリオに基づいた授業実践を行うことをゴールに設定し、そこに至るための関連する知見の獲得と教材開発の開発を行うことを目的とする。

研究のポイント・成果

◆附属小倉中学校における学習テーマ「私たちのまち：北九州市の持続可能性」

やさしさを附中から世界へつなごう シャボン玉アーチ

～世界への発信機～ シャボン玉石けん

「世界」をテーマにした授業で、SDGsの目標を、自分たちの生活と結びつけて考え、実践しようとする。授業を通して、SDGsの目標を、自分たちの生活と結びつけて考え、実践しようとする。

＜動員するSDGs＞

担当：柴田康弘教諭 古森亮太教諭

- ①社会科：環境首都北九州の社会構築のためのデザイン
- ②理科：エネルギーミックスの構築に向けた再生可能エネルギーの特性
- ③道徳科：持続可能性の追求＝アジェンダに向かう根本的思考
- ④国語科：自分事とした上での相手意識の表現方法
- ⑤英語科：SDGsに向かう英語圏的思考－ No one will be left behind.

生徒の変容
(読書新聞2020年2月25日)
SDGs 自ら行動を



学校で昨年、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）について学ぶ授業があった。貧困や環境問題などを世界全体で解決しようというのが、SDGsだ。私が通っている学校のある北九州市は、目標実現へ向けて優れた提案をしたとして国が選んだ「SDGs未来都市」の一つだ。だが、市民の認知度と関心は低いという。実は私もその一人だったが、授業を通して、取り組みの意義と、行動することの大切さを知った。そこで、私にも何かできることはな

いか考えた。節水、節電、友だちに優しくする……。そんなことからでも始められるのだ。ぜひ、自分にできることを探してみたいと思う。私は、SDGsのキーワード「誰一人取り残さない」に心をうたれた。個々人の小さな努力が集まれば、誰も取り残さないことへの、大きな力となるはずだ。



◆成果

- SDGsに向かうことによって教科等横断の手法がより具体的になり、社会科の役割も明確になった。
- SDGというクロスオーバー領域に社会科が挑むと教科の本質を再認識することができた。

今後の課題

◆SDGsに向かう学習評価

- 持続可能性を追求する粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている姿をコレクティブインパクトから看取る。
- バックキャスト的思考に基づいた意図的な取組の中で、当初想定していない変化に臨機応変に対応していく創発的な行動の評価